

アントニオ・サンテリア

チッタ・ヌオーヴァ
「新都市」

註解

鵜沢 隆

“Città Nuova”
Antonio Sant’Elia

中央公論美術出版

建築が爆発的に飛翔する瞬間の 歴史的事件！

磯崎 新 建築家

建築の「未来派」の近代芸術の歴史における独自の位置は、他の諸派とは違って、大都市の根幹にかかわるイメージを産出してきたことである。

都市が単なるスタティックな構成体ではなく、ダイナミックな流動体になる。新しい交通機関が古い都市に侵入して、それを根底から組み換える。先駆的にサンテリアはそんなイメージを産出した。

彼の残したスケッチの数は少ない。ここにその主要な作品が完全復刻されている。世紀末特有の描法を学びながら、あるときそれが爆発的に飛翔する瞬間のあったことを、あなたはこのドローイングをたどることによって感知できるだろう。それは20世紀を特徴付ける大都市のヴィジョンであった。彼が残した手の痕跡をたどることによって、あなたはその歴史的な事件に立ちあう気分にとらわれることであろう。新しい都市交通機関と建築物が合体して流動化する。そのイメージに歴史上誰も経験できなかった都市生活の中でのモデルニテをみることになる。

イタリアの本国でもまだみられなかったサンテリア自身のドローイングの完全復刻が、この都市東京でなされることは、この都市で彼のヴィジョンの一部が既に実現されたからではないか、と私は考えたりする。ともあれ、このような出版がなされるという快挙にであえたことを、心から喜んでいる。

作品篇

内容

- 作品 173点
- ・A3判 160点
- ・A3判二つ折り 9点
- ・A3判三つ折り 4点
- ・カルトン入A全判 10点

ほぼ100年前に「2000年の建築をめざして」とも謳われた「未来派建築」の中心的建築家A.サンテリア。1914年に発表された「新都市(チッタ・ヌオーヴァ)」のドローイングは、近代建築(モダニズム)の到来を予告するメルクマールとして歴史に刻まれている。その2年後には、第1次大戦下で28歳の若さで突然生涯を閉じた。サンテリアの作品は、すべてがそのドローイングに尽きる。ドローイングで近代建築の都市空間(メトロポリス)を見事なまでに告知した。

鉛筆やペンで描かれた力強いドローイングは、新しいテクノロジーによる都市空間の可能性を鮮烈なイメージのパースペク

世界の先進都市の風景を予見

三宅理一 建築史家

イタリア未来派というと、20世紀を告げる新たなイメージを世界に先駆けて示したということ知られています。アール・ヌーヴォーに代表される世紀末のややディレクタントな雰囲気から一転して、電気とスピードに彩られた未来の都市社会を賛美し、その実現に向けて活発で戦闘的ですからある芸術運動を開始したのです。詩人でアジテーターでもあるマリネッティがミラノの運河沿いに金属音を発して走りぬける自動車の美学を謳ったかと思うと、建築家のサンテリアは自動車・鉄道・航空機と建築が一体となったヴィジョンナリーな都市のイメージを製図版の上に描きあげました。二点透視のダイナミックな構図が三次元に広がった都市のヴォリュームをくまなく表現し、装飾を剥ぎ取ったプレーンな表情で上に向かって積層していく高層建築が、その後訪れる世界各地の先進都市の風景を予見しています。

ミラノで巻き起こったこの未来派の旋風は、20世紀初めのヨーロッパ世界に強い衝撃を与え、ロシア構成主義やオランダのデ・シュティルの運動の遠因となりました。サンテリアは早すぎた才能を必ずしも生かしきれず、実作の上では目立った活動はしていませんが、何よりも圧倒的なパワーを誇る「チッタ・ヌオーヴァ」で世界史に残る仕事を果たしました。

この図面が今回、鶴沢隆さんの註解と編集で世に問われると聞き、20世紀の建築理解にまた新しいページが加わったと、長らく建築史研究を行ってきた身として思いもまたひとしおです。

ティヴに定着させた。ほぼ1世紀をかけて現実の都市がその後を追ったとも言える。サンテリアの作品は、現代におけるテクノロジーと建築、都市との関係を考える上でも、単なる歴史的な出来事以上に、新鮮な発見を秘めている。

全ドローイング数は紛失したものも含めて373点が確認されるが、その主要作品173点が、彼の生地コモの市立美術館に収蔵されている。このたび同美術館の全面的な協力を得て、イタリアでも未だ前例のない同美術館の全収蔵作品の原寸オールカラーによる復刻が実現した(15点は縮小印刷)。



150 外部エレベーターのある階段状住宅 1914
紙に黒インク、ダークブルーの鉛筆 385 × 240

CASA A GRADINATA CON ASCENSORI ESTERNI
inchiostro nero, matita nero-azzurra su carta
N. 303

55%縮小見本

[主な作品]

建築装飾のための習作●記念碑・モンツァ新墓地●新ミラノ中央駅●灯台●電力センター●工場●橋●ヴェローナ貯蓄銀行新本社●モンツァ墓地のカプロッティ家墓碑●コモ市労働者組合本部●男性が立つキオスクの習作●塔のある記念碑の習作●教会●発電所●鉄道駅舎●鉄道と飛行機のためのステーション●外部エレベーターのついた階段状住宅●新都市：歩行者のための第二の道路と中央のエレベーター●新都市：複層道路上に建つ階段状住宅●新都市：外部エレベーター、ガッレリア、3層道路上に架かるアーケード、サーチライト、無線電信塔のついた集合住宅

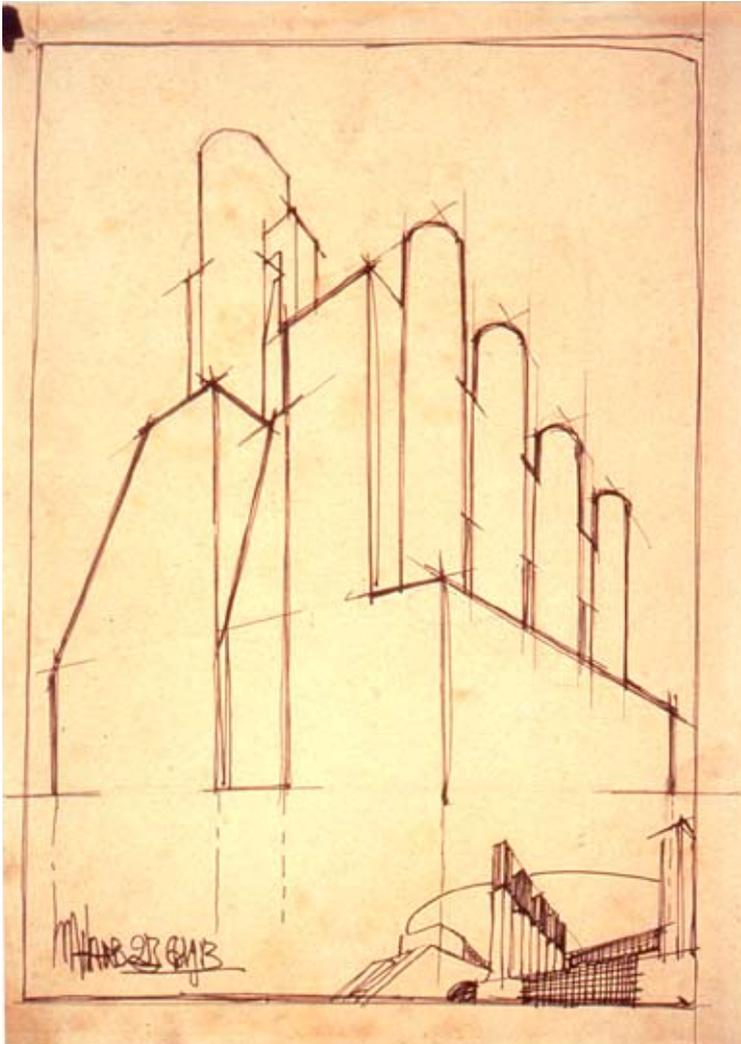
解説篇

内容

1. プロローグ
2. 世紀末都市から
3. 未来派の登場
4. 未来派建築とサンテリア
5. 未来派建築の終焉
6. エピローグ

鵜沢 隆

- 資料1 メッセージ
- 資料2 CGによる空間再現
- 全作品リスト



47 建物の習作 1913

総合芸術をめざしたイタリア未来派の運動は、きわめて都市的な現象であった。新しい「機械」によって切り開かれた新しい感性(スピード)が、芸術のさまざまなジャンルで実験を繰り返し、未来派はアヴァンギャルド芸術のルーツとなり、パフォーマンス、メディアアートの原点ともなった。イタリアの偉大な過去の遺産に決別し、「未来」へのインスピレーションをすべての視座に据えて、20世紀初頭を駆け抜けた未来派。

サンテリアの未来派建築は、たかだか数年の作品に過ぎないが、そこには世紀転換期に激変した都市や輸送機関、さらには新たに建設され始めた発電所が供給する電気による新しい生活への、建築家の鋭敏な感性が結晶している。そうした都市や時代のテクノロジーを新たに検証し、未来派のアヴァンギャルドな芸術運動の軌跡をたどりながら、サンテリアの未来派建築の意味を、彼の短い生涯とすべての作品の中に読み取ろうと試みる。さらには、サンテリア没後の未来派の建築状況についても紹介する。

巻末には、サンテリアのパースペクティヴのCGによる空間再現の試みも紹介している。さらに、コモ市立美術館収蔵以外の作品を含む全作品のリストとその複製も収録して、サンテリアの作品の全貌を伝える。

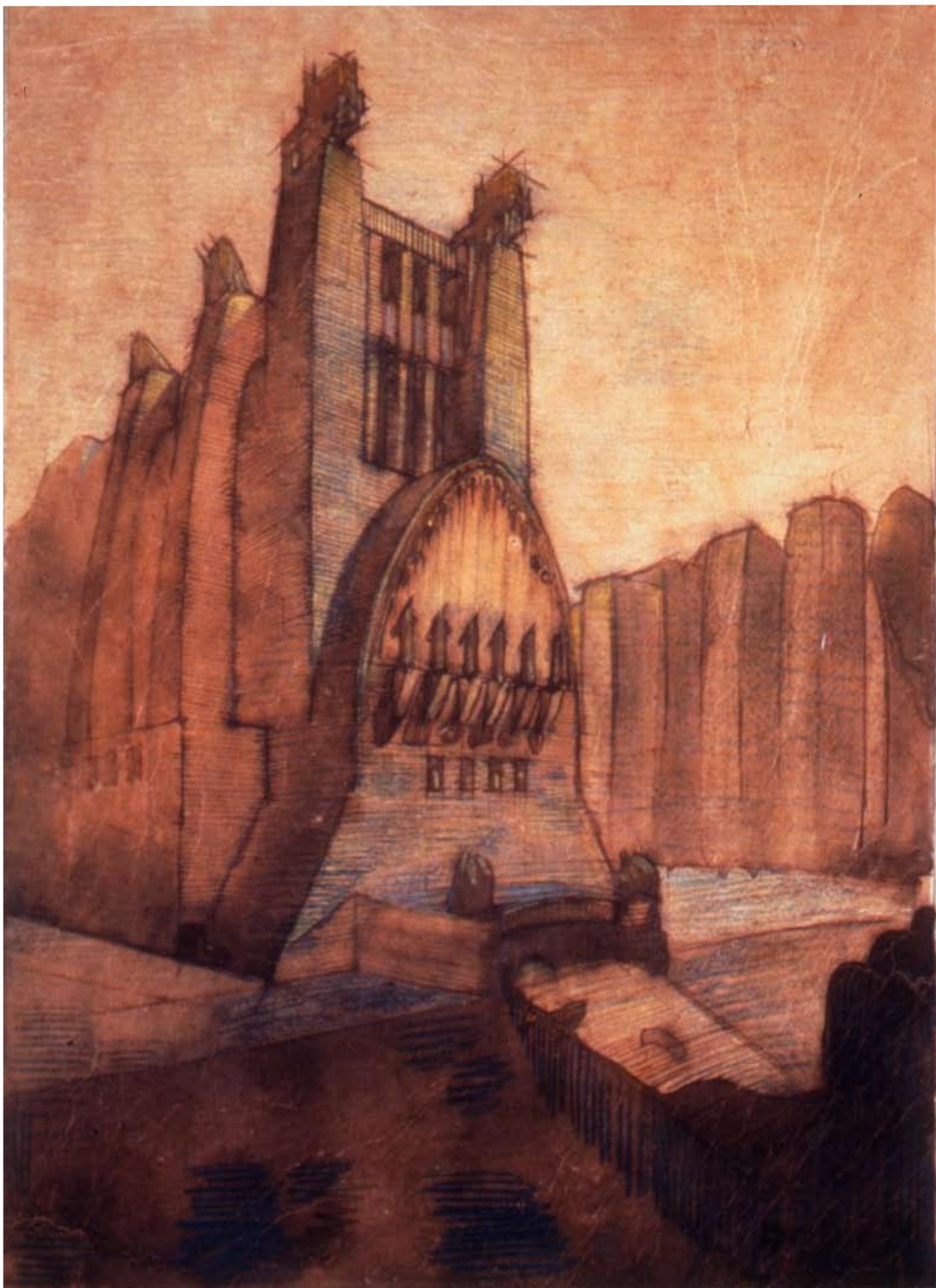


19 装飾の習作 1911



全作品リスト

作品名	制作年	媒体	所在地	備考
建物の習作	1913	鉛筆画	イタリア	
装飾の習作	1911	鉛筆画	イタリア	
...



163 教会 1914 ?

厚紙にセピア色インク、青と茶と黄とオレンジの水彩、黒と青と黄の鉛筆 320 × 230

CHIESA

inchiostro seppia, acquerello azzurro, marrone, giallo e arancio, matita nera, azzurra e gialla su cartone

N. 334

〈未来派〉の天才的建築家サンテリアの作品を 原寸カラーで完全復刻。

2007年3月刊



書名 **アントニオ・サンテリア** チッタ・ヌオーヴァ 「**新都市**」 註解

註解 鵜沢 隆

体裁 堅牢貼り函入り

作品篇 A3判 上製麻布装 収録作品 173点

カルトン入 A全判 収録作品 10点

解説篇 A3判 上製麻布装 104頁

定価 54,600円 (本体 52,000円+税)

ISBN978-4-8055-0541-0



A. サンテリア Antonio Sant'Elia

1888年 イタリア、コモに生まれる。
ミラノのブレラ・アカデミーの建築コースに登録。
ミラノでの「新傾向グループ」展で発表した「新都市」のドローイングで注目を集め、未来派に合流して「未来派建築宣言」を発表。
第1次大戦に際して、他の未来派のメンバーたちとともに従軍。
戦死 (28歳)。

〔作品収録内容〕

A3判 160点

A3判二つ折り (570mm×420mm) 9点

A3判三つ折り (846mm×420mm) 4点

A全判 (830mm×584mm) 10点

編者略歴

鵜沢 隆(うざわ・たかし)

1950年 横浜に生まれる

1974年 東京工業大学工学部建築学科卒業

1982年 同大学大学院博士課程修了

1980～83年 イタリア政府およびロータリ財団給費留学生として、フィレンツェ大学建築学部留学

1986年～1990年 多摩美術大学美術学部非常勤講師

1987年 筑波大学芸術学系・講師

現在 筑波大学大学院・教授

主な著書 『ジュゼッペ・テラーニ ファシズム 時代を駆け抜けた建築』(共著・監修 INAX出版)、『未来都市の考古学』(共著・監修 東京新聞)

主な建築作品 「ハウス117」、「筑波大学総合研究棟D」、「筑波大学総合交流会館」など

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-8-7

電話 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834

お取扱いは